

時 感 断 想

リレーコラム 時 感 断 想

霊友会会長

第三十九回

大形市太郎

4

私は、昭和二十年八月

六日、十数万人の命を一

瞬にして奪った「広島原

爆（ヒカドン）」……、

私自身も広島駅前で被爆

し、全身に大火傷を負い

ましたが、幸いにも九死

に一生を得ました。

その光景はまるで地獄

絵」。私は『はだしの

ゲン』の作者の中沢啓治

さんと対談をしたことが

ありますが、中沢さんが

描いた漫画そのもので

す。被爆した人たちは、

腕の皮膚がズルッとむ

け、それが指の爪で止ま

っている。手を垂らす

と、むけた皮膚が地面を

引きずって痛んでしょ

うね。みんな手を持ち上

げている。足も同じ。腿

破片が入った人も大勢い

て、それが歩きたびにシ

ャリジャリと音がするん

です。

しかし、被爆した人た

ちの苦しみはこれだけで

膚をゾロゾロ引きずり、

は終わらない。その日か

から裂け、腫でかろうじ

て止まった一瞬ほどの皮

砂埃を立てながら歩いて

いる。さながら幽霊の行

進でした。体にガラスの

感染（うつ）る」という

デマのために周囲の差別

を受け、生き地獄が始ま

ったのです。

あれから六十二年余

「。草も生えないと言

われた広島は見事に復興

し、日本も豊かになりま

した。しかし、今もな

お、原爆症で命を奪わ

れ、後遺症で苦しんでい

る人が少なくありません。

二度とこのような惨

心を変えてもらいたいこ

と。

私はお互いを救し合う

ことによって平和は実現

すると思います。

核ミサイルのボタンを

押すのは、悪魔でもなん

でもない。人間です。

「人の心」が変わらない

と「真の平和」は、訪れ

ません。「人間の心の復

興」を目指しましょう。

「救し合おう」と小谷恩師

人間の心の復興

私に小谷喜美恩師（霊友会初代会長）は、こう言

行をしているうちに、気

づいたのです。「アメリ

力を憎んでいたら前に進

めない。憎んでいるうち

は、自分の心にも相手の

心にも平和は訪れない”

と。

大事。人の心が変わ

らないと、決して世の中

は良くならないんだよ

と「真の平和」は、訪れ